

# 「持続可能な農業のための気候変動対応技術・農法の導入・拡大に関する国際ワークショップ」の結果概要

## 1. 概要

本年4月に日本で開催されたG20首席農業研究者会議（G20MACS）※において、我が国は議長国として、「気候変動対応技術」を主要議題の一つに取り上げた。会議では、気候変動対応技術の開発と導入・拡大に関する経験と最新情報を共有し、研究連携を促進するため、本年にワークショップを開催することを我が国から提案し、支持された。

このため、農林水産省は、海外から研究者を招いて、国際ワークショップを開催し、気候変動対応技術の導入・拡大に関する各国・国際機関の経験を共有するとともに、他国の経験から共通の教訓を得るための方法について議論を行った。

（※）G20MACS（Meeting of Agricultural Chief Scientists）は、G20各国及び国際研究機関の首席農業研究者が参集し、世界における研究の優先事項を協議するとともに、各国等の連携強化を目的とするもの。2012年から毎年G20サミット開催国で開催。2019年は我が国が議長国として、4月24日～26日に東京で開催。

## 2. 日程

- （1）2019年11月5日（火）
  - ・ ワークショップ（1日目）
  - ・ シンポジウム
- （2）2019年11月6日（水）
  - ・ ワークショップ（2日目）
- （3）2019年11月7日（木）
  - ・ フィールドツアー（千葉県内）

## 3. 場所

- （1）ワークショップ：農林水産省三番町共用会議所 大会議室  
（東京都千代田区九段南2-1-5）
- （2）シンポジウム：日本学術会議 講堂  
（東京都港区六本木7-22-34）
- （3）フィールドツアー：千葉県内（北総クルベジ、和郷園他）

#### 4. 出席者

日、豪、加、中、仏、印、尼、伊、韓、蘭、露、サウジ、英、米、CGIAR の農業と気候変動に関する研究者・担当者等

日本からの出席者は、

- (1) 農林水産省：末松農林水産事務次官（シンポジウム開会挨拶）、  
島田研究総務官、久保環境政策室長ほか
- (2) 学習院女子大学 莊林副学長（ワークショップ議長）
- (3) 国際農研 岩永理事長（G2OMACS 議長）
- (4) その他：農研機構、国際農研、政策研、民間企業の担当者ほか

#### 5. 結果概要

- (1) 今回のワークショップでは、各国及び国際機関から関係者が参加し、気候変動対応技術・農法の導入・拡大に関する各国・国際機関の経験を共有するとともに、他国の経験から共通の教訓を得るための方法について議論を行った。
- (2) ワークショップ前に各国・国際機関から事例を収集して4つに分類（①適応とリスク管理、②緩和—政策誘導、③緩和—研究機関/国際機関による技術普及、④緩和—経済メカニズム）し、当日はその分類に沿って、事例発表とそれに続く議論を行った。
- (3) 参加者からは、各国・地域に共通する教訓を得るにあたっては、研究機関が果たす役割が重要となることが強調された。
- (4) ワークショップの議論の成果は後日ホームページ上に掲載する予定。また、2020年の次回 G2OMACS 会合（サウジアラビア）において報告する予定。

(以上)